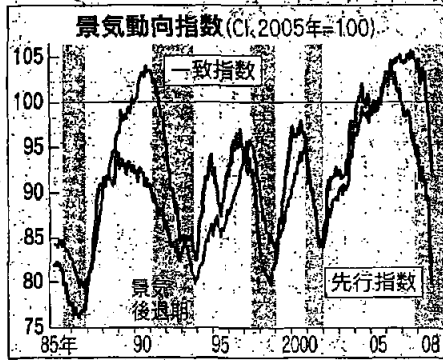


景気一致指数 5カ月連続低下

昨年12月、3番目の下げ幅

▼景気動向指数 足元の景気の動きを示す一致指数と先行指数を示す先行指数、やや遅れて動く遅行指数の三つで景気の動きを示す指標。生産や雇用などの統計から内閣府が算出する。一致指数では、数値の変動で景気の「向き」、水準で「勢い」をみる。先行指数は、内閣府は昨年三月まで景気の向きだけを「DI」と呼ぶ指数で景気を判断してきたが、昨年四月から現行の「CI」による判断に切り替えた。



三月と九月だけだ。設備投資の先行きを示す機械受注統計については、民間調査機関の予想は、一九日に公表になる十二月分の民需（船舶・電力を除く）が三カ月続けて前月を下回るとの見方では一致している。企業の雇用調整もさらに広がった。

「先行き」も悪化続く

格納な悪化より一足先に景況感指数が一月に七カ月前に上昇するなど、消費者心理が冷え込んだ。先行指数を構成する一部に下げ止まりの兆しを示す指標もある。しかし、消費者態度指数は十二月を示す指標も限られており、日本の景気底入れの兆しはまだみえない。

内閣府が六日発表した二〇〇八年十二月の景気動向指数（CI）は、五年（二〇〇〇）速報は、景気の現状を示す一致指数が九二・三と前月に比べ二・六ポイント低下した。低下は五カ月連続。生産や雇用が軒並み悪化し、指数の低下幅は昨年八月、十一月に次いで過去三番目だった。数カ月先の景気を示す先行指数も三カ月連続で「悪化」とした。先行指数の悪化が目立つ。十二月の先行指数は、前月比二・〇ポイント低下した。先行指数は、大目電力使用量、マイナスイナス（マイナスイナス）の三つで景気の動きを示す指標。生産や雇用が軒並み悪化し、指数の低下幅は昨年八月、十一月に次いで過去三番目だった。数カ月先の景気を示す先行指数も三カ月連続で「悪化」とした。先行指数の悪化が目立つ。十二月の先行指数は、前月比二・〇ポイント低下した。先行指数は、大目電力使用量、マイナスイナス（マイナスイナス）の三つで景気の動きを示す指標。